

気仙沼ボランティアレポート(2)

2011年6月1日

5月28日～29日の日程で、気仙沼のボランティア活動に行っていました。
前回の活動から約2週間が経過していますが、「被災地の復興は未だ進まず」といった状況です。
(柔道整復師・鍼灸師3名・臨床心理士・事務スタッフの計5名のチームで参加)



5月29日朝8時、「気仙沼市役所保健福祉部健康増進課・すこやか」において、活動前の全体ミーティングが行われました。



私たちが参加したボランティアチームの皆さんと一緒に写真撮影。



今回の活動の拠点となった避難所の一つとなっている大谷公民館。



大谷公民館裏の歯科医院。
津波が歯科医院の2階まで押し寄せたそうです。
津波に流されてきた車が生々しい。

大谷公民館の1階で活動中の写真。
(写真奥では柔整師がマッサージ。
手前では臨床心理士が被災者の方の話を傾聴。)



大谷公民館2階にいらした94歳のおばあちゃんの足のむくみをとる。94歳とは思えない程、しっかりしたおばあちゃんでした。



本吉病院の看護婦さんの疲れをとる。
病院その他のスタッフの皆さんも、
疲れがピークに達しているようでした。



「右肩が痛くて上がらない。」と言っていた方への針治療を行う。機械設備関係の仕事をしていらっしゃる方。
津波に飲み込まれ沖に流されたそうですが、右手で丸太を抱えていたために九死に一生を得たそうです。



大谷公民館の掲示物。私にはとても意味深い文章に思われました。

(文責：佐久山)